

武蔵野市高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画策定に係る考え方

I 2040年に向けた課題

- 介護と医療の複合ニーズを抱える85歳以上人口、認知症高齢者、独居の高齢者等の増加と同時に、生産年齢人口の減少が見込まれる。
- 地域の規模によって高齢化・人口減少のスピードに大きな差が生じること等も踏まえ、地域の状況に応じた、きめ細かな対応が求められる。
- 地域包括ケアシステムを深化させ、医療・介護の一層の連携を図り、介護人材の確保、介護現場の生産性の向上を図るための取組等を十分に勘案した上で、計画を定める必要がある。

II 国の基本指針のポイント

1. 介護サービス提供体制の計画的な整備
 - ① 地域の実情に応じたサービス提供体制の整備
 - ② 在宅サービスの充実
2. 地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた取組み
 - ① 地域包括ケアシステムの深化
 - ② 保険者機能の強化
 - ③ 地域包括ケアシステムを支える介護人材及び介護現場の生産性向上

※ I及びIIは、全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議資料（令和8年3月・厚生労働省老健局介護保険計画課）を基に作成

III 本市の計画策定において検討すべき主な事項（案）

1. 多様な社会参加の促進による高齢者の健康でいきいきとした生活の支援
2. ひとり暮らしなどの高齢者の在宅生活を支える見守りやサポートの充実
3. 新しい認知症観に基づき認知症のある人とその家族を地域全体で支える環境の形成（まちづくり）
4. 社会環境と介護のニーズの変化に応じたサービスの確保
5. 在宅医療・介護のさらなる連携強化による、高齢者の在宅生活の継続の支援
6. 介護サービスの提供基盤の安定化（介護人材確保・定着の支援、介護事業所の運営・経営の改善の支援）